きたかみ在宅医療介護連携支援だより

発刊：第　12 号
発行：平成 31 年 4 月

更木地区「心づもり勉強会」

主催　社会福祉協議会更木支部

３月８日　更木地区交流センターホールにて「心づもり勉強会」が開催されました。更木支部長菅直志氏の挨拶の後、岩手県立中部病院副院長星野彰氏より、「わたしのきぼうノート」が出来るまでの経緯と活用方法についてお話をいただきました。その後集まった約 50 名の更木地区のみなさんと、ノートの書きっこ会を行いました。皆さん熱心に書き込んでいました。書きっこ会のあと、ノートを書いてみた感想を皆さんで共有しました。「このノートがあれば自分の希望を書いておける」「離れている家族と話し合って書くのは難しいが近くに頼りになる方がいるので相談しながら書いていきたい」今まさに介護をしている方からは「家族だからこそ聞きにくいこともある」などの意見もありました。何回でもノートの書き直しが出来ることや、わからない時の相談場所などがノートの巻末に資料編として掲載してあり、今後は「認知症や成年後見人制度について知りたい」などの意見も上がっておりました。

北上市地域リハビリテーション報告会
～”みんなで支える新しいリハ“地域リハビリテーションを考える～

主催：北上市長寿介護課/北上市在宅医療介護連携支援センター

３月 11 日　北上市文化交流センターさくらホール小ホールにて、北上市における多職種連携による短期集中プログラムの成果が報告されました。医療・保健・福祉関係者・地域リハビリテーションに関心のある方を対象とした、北上市地域リハビリテーション報告会を開催、７０名の方が参加されました。「これからの地域リハビリテーション」について、いわてリハビリテーションセンター理学療法科長の佐藤英雄氏よる講演が行われ、これからの地域リハビリテーションと専門職の役割についてお話をいただきました。その後、報告１「～多職種連携による短期集中介護予防事業～元気アップ教室の取り組み」について、主任保健師住吉香奈子氏より、北上市では多職種で連携し、短期間で効果を上げるプログラム構築に挑戦し成果を共有した取り組みについて報告が行われました。報告 2 では「～事業所として取り組むリハビリテーション～総合事業の ABC…」について、日高見中央クリニック理学療法士高橋香純氏より、平成２９年度から総合事業について、事業所としてどのように活用しているのか実践報告が行われました。また、北上済生会病院作業療法士佐藤優輝氏をカフェマスターに「地域リハビリテーション時代における私たちの役割を考えよう」をテーマに、ワールドカフェを開催し、まちの仕組みづくりの発想を考え意見を出し合いました。

平成 30 年度在宅医療介護連携研修会「遠隔診療について」

主催：北上薬剤師会

3 月 12 日、北上市文化交流センターさくらホール小ホールにおいて、北上薬剤師会主催による在宅医療介護連携研修会が開催されました。株式会社メドレー医師来田誠氏をお迎えし「遠隔診療について」お話がありました。医療関係者、介護関係者など、約 30 名の方が参加されておりました。医療・介護の場において、遠隔診療が現在どのような立ち位置にあるのか、導入を検討する際のメリット・デメリットについて、家族の通院負担軽減や通院中断・脱落しないようにオンライン診療は役立っていること、小児の神経難病などセカンドピニオン領域においても遠隔診療システムが活用されていること、また、オンライン診療普及のためには、電子処方箋の普及や医療データの標準化が必要、とのことでした。近い将来、医療の形も変化していくことを実感した研修会となりました。

平成 30 年度第 2 回在宅きたかみ地域包括ケアネットワーク研修「高次脳機能障がい研修会」

共催：北上市在宅医療介護連携支援センター/いわて高次脳障害友の会イーハトーヴ

3 月 14 日、北上済生会病院にて、平成 30 年度第 2 回在宅きたかみ地域包括ネットワーク研修「高次脳機能障がい研修会」が開催されました。北上済生会病院脳神経外科医長柴内一夫氏より「高次脳機能障がいについて」、いわてリハビリテーションセンター医療ソーシャルワーカー・高次脳機能障がい支援コーディネーター上田大介氏より「高次脳機能障がい者の基本的理解と支援について」講演会が行われました。その後、ＮＰＯ法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ松田眞由美氏より、「ＮＰＯ 法人いわて高次脳機能障がい友の会イーハトーヴの活動紹介」、日高見中央クリニック理学療法士高橋香純氏より「日高見中央クリニックあすなろ会の取り組みの紹介」報告が行われました。講演、報告の中で、「見えない障がいと言われる高次脳機能障がいの症状は、他者にわかりづらく一般に理解するのが難しい」ことに触れ、当事者にとって適切な環境を作ることが重要であることが繰り返し話されていました。市民、医療、介護、福祉関係者など参加者 63 名は、高次脳機能障がいについての正しい知識、県内の現状と課題、相談支援の取り組み状況についての理解を深めておりました。当事者とその家族に対する支援ネットワークの連携充実を図り、適切な継続的支援が受けられるよう、関係職種の理解と家族会と連携支援していくことが大切だと感じました。地域の方々にわかっていただくにはなかなか難しい環境の中で、このような研修をきっかけに、多くの人が学びや理解を深める場になっていけるよう今後も取り組んでいきたいと思います。

平成 30 年度北上医師会緩和ケア医療講演会
医療用麻薬は生活を守る痛み止め
～自宅や施設で安心し使っていただくポイント～

主催：北上医師会

３月 15 日、北上市文化交流センターさくらホール大アトリエにて、「地域（医療機関・在宅・福祉施設等）における緩和ケア～医療用麻薬自己管理について」と題し、青森県立中央病院副院長緩和医療科部長的場元弘氏の講演会が開催されました。医療用麻薬は「生活を守る痛み止めという意識を持つこと」についてふれ、痛みの把握を 10 段階やフェイスではなく「痛みで出来ない事や困っていることはないですか」と問うと効果がわかることや、医療用麻薬とせん妄、進まない医療用麻薬の自己管理、医療安全など、についてお話がありました。医師や看護師、薬剤師、ケアマネジャーなど多職種の参加でしたが、在宅での医療用麻薬を安心して使うポイントなどをわかりやすく講演していただきました。

平成 30 年度第 3 回在宅医療介護連携推進協議会

主催：北上市在宅医療連携支援センター

３月１９日、北上済生会病院にて、第３回北上市在宅医療介護連携推進協議会が開催されました。平成３０年度は多職種連携向上と市民意識醸成期として、関係機関の協力を得て取組を進めてきました。在宅チームケア体制の構築に向けた具体的な課題解決の取組みとして、「入退院支援部会」の立ち上げ、市民のケア選択支援（心づもり）については、市民フォーラムや市民や多職種も交えての勉強会の開催に加え、心づもりのきっかけとしてもらうための「わたしのきぼうノート」の完成、「医療・介護人材育成のためのテーマ型研修会」（計５回）の開催、認知症初期集中支援チームの立ち上げと相談事例、多職種による短期集中介護予防教室「元気アップ教室」などについて、北上市・北上市在宅医療介護連携支援センターより報告が行われました。事業報告を受け、委員より、入退院支援、診診・病診連携について、入院治療を終え自宅へ帰る前に開催する退院前カンファレンスが、本来の目的や役割から大きくずれていること、本来入退院支援とは何のために行うのか考える必要がある、入退院支援の情報ツールができたから終わりとせず、本人や家族に寄り添った支援体制の構築を進めてほしい、という意見がだされました。

平成３０年度の実績及び来年度への課題を踏まえ、市と在宅きたかみが連携して平成３１年度の事業を計画していきます。

北上市在宅医療介護連携支援センター　柴内一夫センター長ご挨拶

高峰には雪が残るものの着実に暖かさを感じ始める季節となりました。

医療介護に携わる皆様方からのご厚情に、センター職員より感謝申し上げます。

平成 28 年2月 25 日付で連携拠点として設置され、満三歳となった当センターは、よちよち歩きの時期を経て新年度を迎えることになります。この頃の子供は「なぜ？なぜ？」を連発します。私たちも慣習に囚われることなく常に何故という視点を持ち続け、当事者に寄り添いたいと考えます。「それは…だから。」ということが分かると、様々な問題に対する解決の糸口とすることができます。この「なぜ？…だから」の様式は、当事者のこと、当事者の物語がわからないことには成立しません。そのためには、多職種がそれぞれの専門性を持ち寄って多様性の中で理解をすることがとても大切となります。そうして進める在宅チームケアは大変かも知れないけれど、きっと充実したものに違いありません。

在宅きたかみでは、きたかみ型地域包括ケアのビジョンを実現するため、地域住民主体の医療と介護へのサポートや、多職種の連携を図って在宅チームケア協働を円滑にするお手伝いが出来ることを目指しております。今年度も何卒よろしくお願いいたします。

4 月から北上市長寿介護課課長補佐の木野渉氏が着任いたしました。皆様よろしくお願いいたします。

長寿介護課
包括支援係
高橋範行係長

長寿介護課
包括支援係
木野渉（きの わたる）
課長補佐

北上市在宅医療介護連携支援センター

看護師
菊池絹子

医療ソーシャルワーカー
菊池涼子

センター長
柴内一夫

事務職員
菊池愛

編集後記：

年度初めで職員の異動や 5 月からは元号も令和に変わります。新メンバーとなりスタートしましたが、3 年の積み重ねをもとに一歩進んだ在宅医療介護連携に努めていきたいと思います。相談やご意見ご要望がありましたらご連絡ください。

尚、連携だよりが 10 号から 12 号までの発行となってしまいました。また、ホームページの情報発信に時間がかかり申し訳ありませんでした。今後ともよろしくお願いいたします。

発行：〒024-8506
北上市花園町１丁目 6-8（北上済生会病院管理棟２階）
北上市在宅医療介護連携支援センター
ＴＥＬ　0197-88-3011　　ＦＡＸ0197-88-3012

在宅きたかみのホームページはリニューアル予定です!!お楽しみに…